

周辺地域の発展を

県道志免須恵線の全面開通が目前に



平成25年9月 全面開通予定

須恵スマートインターチェンジのアクセス道路「志免須恵線」の全面開通が、いよいよ目前に迫りました。筑紫野〜古賀線のバイパスとして、以前町道だったものを、県道に認定するところから始まって約5年余り、着工からは約3年が経ちましたが、工期は少々長引きましたが、今年の9月中には供用開始ができそうです。周りに、企業や店舗等が進出し、様変わりを見せ始めています。須恵町の市街地のひとつとして発展することを願っています。



開通に向け工事が進む志免須恵線

一／般／質／問

どげんなっとうと?

待機児童対策と保育士確保は

保育士増員で対応

問 新しい社会インフラとして、働きながら子供を育てる環境を整備し、安心して生み育てることができる社会が求められています。須恵町では、れいんぼ一幼児園の開園により、待機児童の解消が期待されていましたが、蓋を開けてみると待機児童が増えるという結果になりました。少子化とはいえ、

女性の社会進出にともない、今後ますます待機児童の増加が予想されます。また、保育士の確保も深刻な問題となっています。来年度から、南幼稚園の3歳児保育がおこなわれますが、今後の待機児童対策と保育士の確保等について、町長のお考えは。

答 中嶋町長



今村 桂子 議員

今年度、東幼稚園とかやの保育所を廃止し、れいんぼ一幼児園を開園したことにより、待機児童の緩和が出来るのではという予測をしていました。しかし、今年の4月1日現在は41名(募集時では約80名)の待機児童がいます。

今年度は町立幼稚園の園児が以前に比べ130名増の361名になり、予測を超えた増加となっています。大きな施設をつくりましたが、依然、待機児童の解消までいたっていません。今回、第一学童保育所を第一小学校の校庭内へ移設する件が議案で出ていますが、元

の建物を待機児童の一時預かりのような施設として利用できないか、子ども教育課で検討し、関係機関との協議を進めています。保育士確保は、来年度、再任用を含め、3名の採用を予定しており、できればあと数名の臨時雇用を考えています。



4月に開園した「れいんぼ一幼児園」